



今年は、急に寒くなっても、暖かい日が続いたり、秋から冬への移り変わりも穏やかで、いつになく「秋」が長く感じられます。コロナ感染症やインフルエンザなど、健康管理に神経がピリピリする日が続いていますが、現在保育園では、体調を崩してしまうお子様はいますが、流行している感染症もなく元気に過ごす事が出来ています。今後、保育園で流行する感染症がありましたら、その都度玄関ホールに掲示お知らせいたします。又、流行している感染症についても情報としてお知らせしていきますのでご確認ください。

～気になる新聞記事を見つけたのでご紹介します！～

「体を守る」幼少期からの性教育

「性教育を始めたいがどうすればいいのかわからない」「息子が自分の性器を触ったり、引っ張ったりして遊んでいた」「赤ちゃんは、どうやってできる？と聞かれた」など親として教えなければならない場面が増えてきた…と困っている保護者の方も多いのではないでしょうか？

性教育は、単に妊娠、出産の仕組みにとどまらず、子どもがより健康に安全に生きるための「健康教育」専門家は、生まれた時から保護者ができることはある！と言います。

大切な体を守るため親が幼少期からできること

①自分と他人の境界線を大切にすること

- ・不用意に、予告なく子どもの体を触らない

「自分の体は大切だ」という子どもの肌感覚を養う。赤ちゃんの時でも、服を着替えさせる時「脱ごうね」とひと声かけたい。小さい時から健全な触れられ方をすることで、自分と他人の境界線を覚えていく

②自分の体を好きになってもらう

- ・おむつ交換の時「いいうんちでたね」「きれいになって気持ち良いね」と肯定的に伝えるのが効果的。

③性器の科学的な名称と、その働きを伝える

- ・一人で立てるようになったら自分の性器は自分で洗うように促す。

正しい名前と清潔に保つ方法を知ることが、健康上も必要です。他人に簡単に触らせないと学ぶ効果もある。

④プライベートゾーンについて教える

- ・「口、胸、性器は、自分だけの大切な場所」と繰り返し伝える。もし誰かに触られそうになったら、「いやだ！」と、とにかく逃げて、安心できる人に相談するよう繰り返し教える。

⑤妊娠や出産の仕組みを伝える

- ・抵抗感があるなら、絵本を使って見るのもおすすめ。

北海道新聞～子育て～・「性のお話」浅井春夫著 引用

幼児期は、あまり偏見を持たずに、最も素直に性について受け入れられる時期です。又、子どもは、好奇心にあふれています。この時期に性について抑圧的な罪悪視したメッセージを送るのか、それとも性をポジティブにとっても大切なものであるというメッセージを送るのかは、性教育の大きな分岐点です。子どもの命を守るため、と思っても「言いつらい」と感じる人もいますが、その子の関係性の中で、ベストなやり方を探ってほしいと思います。